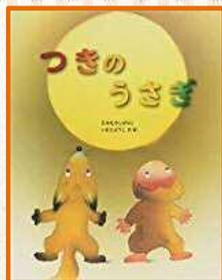




大好き！絵本

初瀬 恵美



『つきとうさぎ』
日本むかしばなし
文・絵：いもと ようこ
出版社：金の星社

暑かった夏もようやく終わりに近づき、朝晩は少しずつ涼しくなってきましたね。今月は、中秋の名月にちなみ『つきとうさぎ』をご紹介します。

むかし、あるところに ウサギとキツネとサルが仲良く暮らしていました。ある日、三匹は、道端で倒れている老人を見つけました。老人はお腹をすかせて倒れていたのです。三匹はいそいで食べるものを探しに行きました。サルは柿をキツネは魚を老人に届けました。サルとキツネが何日も食料を届ける一方、ウサギは何も見つけれませんでした。ある日「今日は 私、食べ物をきつともってくるわ。だから薪をいっぱい あつめて、勢いよく火をたいて、まっけてね。」と言ってウサギはでかけました。でもやっぱり食べ物は見つけれず、何も持ってこれませんでした。

仲よしだった、サルとキツネに責められ、追い詰められたウサギは「こんな私にも、たった一つできることがあります。おじいさん、こんな小さなからだですが、どうぞ召し上がって下さい。」と真っ赤に燃え上がる火の中へ飛び込んだのでした。そのときです！老人の手がさつとひびて、もえさかる火の中から、うさぎを拾い上げました。老人は神様だったので。そして自分の身体を犠牲にしてまで、ひもじい人に自分をささげる尊い心のうさぎを、大好きだった月に住まわせてくれるようにしたのでした。そして、うさぎは、月の世界で、いつまでも幸せに暮らせるように、永遠の命をあたえられた、というお話です。

みなさんも、どこかで、一度はきいたことのあるようなお話してはないですか？このお話にちなんで、日本では古来より、月にはうさぎがいて、餅をついているとよく耳にします。

ところが、世界各地には、月にまつわる神話や伝説がいろいろあるそうです。そして、日本ではウサギが餅をついているように見える模様も、北ヨーロッパでは「本を読むおばあさん」だったり、南ヨーロッパでは「大きなはさみのカニ」だったり、見え方もいろいろあるようです。

そんな、こんなの、いろいろなお話しや、いもとようこさんの、優しさあふれるあたたかい絵の『つきとうさぎ』などを読みながら、澄んだ秋の夜空や月を眺めてみるのも楽しそうですね。虫の音も心地よく、とてもよい季節が訪れましたよ。

ちなみに、今年の中秋の名月は9月24日(月)、満月は翌日9月25日(火)だそうです。

